



ぜひ、おうちのかたといっしょ
によんでください！

1年生のみなさん、入学おめでとうござります。2,3,4,5,6年生のみなさん、進級おめでとうござります。学校司書の齊藤博恵です。学校司書は、先生方と力を合わせて、全クラスの図書を使つた学習のお手伝いをします。新浜小のみんなが読書が大好きになってくれるよう、がんばります。

「あいことばはヒ・ラ・ケ・ホ・ン！」こどもの読書週間 4/23～5/12



子どもたちにもっと本を！との願いから、「こどもの読書週間」は1959年(昭和34年)にはじまりました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間(5月1日～

14日)でしたが、2000年より、今の4月23日(世界本の日・子ども読書の日)～5月12日になりました。小さいときから本を読む楽しさを知っていることは、子どもが大きくなるためにとても大切なことです。「こどもの読書週間」は、大人が本を子どもに手わたす週間でもあるのです。(読書推進運動協議会ホームページより)

★どんな本を読んだらいいか、わからないときは…おすすめの本のリストがあります。

千葉県教育委員会子どもの読書活動啓発リーフレット「図書館司書が選んだ『子どもに読んでほしい本100選』」…小学生におすすめの本のリストが載っているホームページです。(おうちの人と、時間があるときに一緒に見ましょう) このリストにある本は、行徳図書館など、公共図書館で借りることができます。

としょしつ 図書室からのお知らせ

- 4月、新しいクラスでの最初の「図書の時間」には、「オリエンテーション」といって、図書室の利用案内をしています。オリエンテーションをしたクラスから、図書の貸出が始まります。児童がそれぞれの「読書のめあて」(1週間に何冊の本を読みたいか)を決めて、「読んだ本をすべて記録していくこと」を勧めていきたいと願っています。図書室で借りた本だけでなく、家にあった本や公共図書館で借りた本なども、読んだらすべて記録しましょう。
- 学校司書は、児童に「必ず1冊は9類(文学、物語)の本を借りましょう」と呼びかけています。「なんで9類の本を読まなくちゃいけないの?」ときかれることがよくあります。が、物語を楽しんで読んでいくうちに、ストーリーを追うことで読解力がついたり、登場人物の心情を読み取ることができるようになります。知らず知らずのうちに語彙(ボキャブラリー。自分が使える言葉)が増えたりして、国語の問題を解く力がついていくと考えるからです。算数の文章題も、より理解しやすくなると思います。難しい本でなくて構いません。図書室で本を手に取ったら、中を見て、今の自分が楽しんで読めそうな本を借りてみてください。おうちのかたともぜひ、図書室で借りた本のことわだいを話題にしてください。
- オリエンテーションの時に、「各学年の国語の教科書で紹介されている本(○年生で読みたい本)」のリストを配ります。各クラスの図書の時間には、このリストを使いますので、黄色い「読書の記録ファイル」に綴じて、必ず持ってきてください。



- 「うちどく」のすすめ 連休など、おうちの方と家で過ごす時間に、「うちどく」をおすすめします。

「うちどく」に特別なルールはありません。家族で好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが基本です。同じ本をみんなで読めば、会話もいつも弾みます。また、本をすすめあったり、読む本について相談しあったりすることでもコミュニケーションが生まれます。（トーハンHPより）

★ 「うちどく」について、詳しくは <https://www.tohan.jp/csr/uchidoku/>を見てください。
「うちどくノート」、「うちどくブックガイド」がダウンロードできます。